

令和6年度
第2回三島市在宅医療介護連携推進会議 会議録

1 開催日時

令和6年10月10日（木） 午後2時00分～2時35分

（令和6年度三島市地域ケア推進会議と合同開催。同会議終了後、本会議を開催）

2 開催場所

三島市役所本館3階 第1会議室

3 出席者

(1) 委員

金木委員（議長）、半田委員（副議長）、加藤委員、堀口委員、原委員、眞野委員、高木委員、米山委員、久保寺委員、幸野委員、笹原委員、堀江委員、笠原委員、杉山委員、小野委員、山田委員、千葉委員、渡邊委員

(2) 事務局

<社会福祉部>

西川社会福祉部長

<こども・健幸せまちづくり部 健康づくり課>

浅見課長（欠席）

<社会福祉部 長寿政策課>

石井長寿政策課長、柿島副参事（欠席）、

伊藤課長補佐、久保田介護支援専門員、田神

4 会議の公開・非公開

公開

5 傍聴人

1人

6 会議の内容

(1) 議題

令和6年度 事業中間報告及び下半期の計画について

【事務局説明（要旨）】

- ・第1回入退院支援検討部会を7月26日に実施し、看取りケア支援検討部会は、第1回を8月23日に実施。それぞれの実施内容は議題のその他で報告する。
- ・情報共有支援会議については、12月頃に書面開催予定。
- ・医療介護連携センターの実績は、上半期は56件の相談であった。昨年度と比べ相

談数は横ばいの状況。

- ・多職種連携研修会は9月25日に実施済み。全体研修会は、内容を意思決定支援として実施予定。講師に今後依頼をしていくが、医療介護の両面より講話をいただく予定である。
- ・地域住民への普及啓発については、中学生の地域医療講座を9月19日に錦田中で実施し、11月には山田中学校、北上中学校にて実施予定。広報みしま11月1日号で「人生会議」に関する特集を予定。シニアクラブ会報とボイスキューでも普及啓発を予定している。

(在宅医療コーディネーター)

- ・在宅医が見つからず、困るといった相談は体感として以前より減っている。
- ・訪問診療医が市内2件あったが1件に減った。近隣の沼津や長泉町から市内への訪問する医師がおり、困る人が少なくなっていると考えられる。
- ・在宅医を探すという相談よりも手順や進め方の相談がある。ケアマネージャーであれば、紹介後に医療機関との良い関係ができるとその後は相談がなく、ケアマネージャー側から直接在宅医への相談ができるようになる。そういった関係を作ることも医療介護連携センターの役割であると考えている。
- ・その他の相談は他県に住む親を近くに呼びたい、また精神科の訪問診療医を探しているというものがある。

【質疑・応答】

(委員：リハビリ)

- ・自身も訪問をしているが、かかりつけ医の訪問が増えていると感じている。しかし、在宅訪問や訪問医は不足しており、状態が悪くなった時に急いで探すこともあり、今後も取組みが必要だと感じている。その一方でケアマネージャーが経験を積み、自分たちで在宅医を探し対応している。

(委員：社会福祉協議会)

- ・社会福祉協議会は、訪問介護と居宅介護支援の両方を行っている。居宅介護支援においては、医療機関とのスムーズな入退院支援の連携がとれていると聞いている。

在宅医療・介護連携推進事業における4つの場面のめざすべき姿の検討について

【事務局説明（要旨）】

- ・国が今後見込まれる在宅医療ニーズに対応するため、在宅医療が円滑に提供される体制構築を求めており、在宅医療介護連携推進事業を進めてきたところである。在宅医療の体制構築に係る指針に基づく4つの場面と、目指すべき姿のうち2場面のみ設定している。

第1回在宅医療介護連携推進会議において、在宅医療に係る支援に基づく4つの場面のうち、「日常の療養支援」「急変時の対応」の目指すべき姿の設定に向けて進めることを決めた。7月の入退院支援検討部会、8月の看取りケア支援検討部会にて検討を行った。

各部会で出された目指すべき姿の意見を取り入れて設定案を検討した。

- ・日常の療養支援は、「ACPが進み、住み慣れたなじみの環境で、本人や家族の希望が重視され、画面が異動となっても多職種が連携することにより穏やかに療養生活を送ることができる。」
- ・急変時の対応については、「日常の療養時から本人の意見が尊重され、本人と共に考え、緊急時に本人の望む適切な医療を受けることができる」
- ・この設定案についてご意見をいただき、設定を行いたい。

【質疑・応答】

(委員：薬剤師)

- ・日常の療養支援については、簡潔に記載されている。ACPをわかりやすい言葉に変換するとよい。
- ・急変時の対応については、特段訂正はなし。

(議長)

- ・ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の日本語訳は人生会議であるため、修正していった方が良いと考えている。

(委員：病院相談員)

- ・ACPの解釈が難しいこと、人生会議であっても人生のどの場面を想定するかにより変わる。
- ・現場では話し合いを行っていない場合がほとんどであり、ACPや人生会議という言葉についても知られていない。
- ・病院で積極的に進めると病状が悪化していると誤解を招くことがあり、希望を聞いて関わっている。
- ・本人と家族の意見に相違があることが当然であり、健康なうちから会議を習慣化する必要を感じた。

(委員：介護支援専門員)

- ・「日常の療養支援」には家族が記載されているため、「急変時の対応」には家族の記載がないため記載した方がよいと考える。

(議長)

- ・私もここは本人と家族とともに考えた方がよいと思う。

(委員：リハビリ)

- ・「日常の療養支援」に「住み慣れたなじみの環境」という言葉があるが、家族の形が変わってきており、必ずしも今の住処がいい場所ではないというもいる。「本人の望んだ環境」にしてはどうか。
- ・「日常の療養支援」の後半の「場面が移動」という言葉が分かりにくいいため、「いかなる場面でも」という言葉にしてはどうか。
- ・「日常の療養支援」の「穏やかに療養生活を送ることができる」は、穏やかであることは大事だが、豊かさも大事であると考えているため、「穏やかで豊かな生活」に変更すると良いのでは。

(議長)

- ・これまでの意見を踏まえて設定案を変更していく。

- ・「日常の療養支援」は「人生会議が進み、本人の望んだ環境で本人や家族の希望が重視され、いかなる場面となっても多職種が連携することにより穏やかで豊かな療養生活を送ることができる。
- ・「急変時の対応」は「日常の療養時から本人の意見が尊重され、本人や家族と共に考え、緊急時に本人の望む適切な医療を受けることができる。」
- ・設定にあたり、賛成の場合は挙手をお願いしたい。
- ・挙手多数のため、設定案を確定する。

その他

【事務局説明（要旨）】

- ・第1回入退院支援検討部会では、令和5年度に実施した「居宅介護支援事業所等における入院時情報提供書の実際に関するアンケート」実施報告を行った。以前と比べて連携が行いやすくなっているという意見であった。
- ・課題である延命治療の意向確認についての意見交換では、元気な時には確認しづらく、治療場面では重く受け止める傾向にあるため、早期から行うことが望ましいが難しさがある。勉強会や意見交換を求める意見があった。
- ・入退院支援検討部会の下半期は退院時の評価指標の検討、取組みの成果や方向性を修正すべき点の把握についての検討を進めていく。
- ・看取りケア支援検討部会については、令和5年度に看取り場面でのめざすべき姿の設定と現状の整理を実施し、解決すべき課題の優先順位、検討事案についての検討を行った。
- ・令和6年度は効果的な普及啓発の方法についての検討を行っている。媒体の利用にあたり、どの媒体であっても共通の色彩やデザインを使用していくことや若い世代から高齢期まで共通して使用できるエンディングノート作成の意見がある。
- ・看取りケア支援検討部会の下半期は、エンディングノートに関する情報収集、看取りガイドとの併用、評価指標についての検討を進めていく。
- ・「日常の療養支援」「急変時の対応」のめざすべき姿に対する検討では、本人と家族の希望を重視、日常の療養支援で話し合っておくことの大事さについての意見が多く聞かれた。
- ・入退院支援検討部会、看取りケア支援検討部会の両部会より早期からの本人の希望の聴取が望ましいという意見があり、全体研修会の内容を意思決定支援とし、進めていくこととした。
- ・全体研修会の講義内容についての意見を伺いたい。

【質疑・応答】

（委員：病院相談員）

- ・意思決定支援の場面については、病院の退院支援で多くの場面を経験している。高齢世帯の方に説明しても理解が得られにくい。今後高齢化が進む中で意思決定支援の場面が増加することが考えられるため、どのように理解していただけるかが課題だと感じている。

(議長)

- ・現場での現状を伝えることも良いと考えている。

(委員：訪問看護師)

- ・人生会議が近年変わってきている。どう生きるかという視点が広がっている。診療報酬改定があり、意志決定支援が含まれるようになった。
- ・医療面においては、病院で行われる意思決定支援の実際や困難に対する取組み、介護側へのスムーズな情報提供について聞けるとよいのではないかと。
- ・介護面においては、在宅で関わる者がどのように意思決定支援に関われるのかを具体的に聞けるとよいのではないかと考える。

(議長)

- ・意見に感謝。委員の意見を踏まえて、講師との打合せをお願いしたい。

【質疑・応答】

特になし